

つむ 地域の想いを紬いで

～養蚕の郷の地域おこし～

(白鷹町)

平成25年作品 おかいか姫とまゆ美



蚕桑駅前夢プロジェクトのみなさん



田んぼアートを眺める観光客

田園にうかぶ絵画

みなさんは「田んぼアート」をご存じだろうか。田んぼをキャンパスに見立て、様々な種類の稲を使って巨大な絵画を描く取り組みだ。青森県田舎館村いなかたてで始められた田んぼアートは、現在、全国各地に広まっている。ここ、米どころ山形県でも、県内各地のグループが田んぼアートに取り組んでいる。今回は、その1つである、白鷹町蚕桑地区『蚕桑駅前夢プロジェクト』の活動を紹介する。

蚕桑の田んぼアートの始まり

蚕桑の田んぼアートは、木村さん（プロジェクト代表）の「地域に人を呼び込みたい」「住んでいる人たちの誇りに繋がりたい」という想いから始まった。そして、木村さんと志を同じくする仲間が集まり、平成20年にプロジェクトが発足した。以降、毎年田んぼアートを制作し続け、今年で11年目となる。

プロジェクトは広報や技術の面で行政支援を受けず、メンバーが知恵を出し合い、手探りで活動を始めた。多面的機能支払交付金（農林水産省）を活用しつつ、足りない部分はメンバーで協力し合い、維持管理や制作に励んできた。

蚕桑の田んぼアートは、地区の創作物語である「おかいか姫物語」をテーマに、毎年ストーリー性のあるデザインを披露してきた。平成30年度からは、災害時応援協定を結ぶ神奈川県海老名市のマスコットキャラクター「えびくにゃ」の可愛い姿を描いている。

田んぼアートに使われる稲って？

細かい描写を表現するため、たくさんの種類の稲を使います。蚕桑地区では6種類の稲を用いて描きます。

- はえぬき（ベースカラー）
- 紫稲（黒）
- 黄稲（黄）
- べにあそび（赤）
- ゆきあそび（白）
- あかねあそび（橙）

住む人の誇りと自信に

蚕桑駅前夢プロジェクトの活動は、蚕桑地区内だけにとどまらない。蚕桑の田んぼアートと競うように、山形県尾花沢、栃木県那須塩原、秋田県内陸線沿で活動が始まった。県内外の仲間がつながりを持ちながら、地域を盛り上げている。

メンバーの今野さんは「田んぼアートを通じて、白鷹町の『人』に会いに来てほしい。そして、白鷹町を創りあげて来た先人の思いを引き継いでいきたい」と語る。

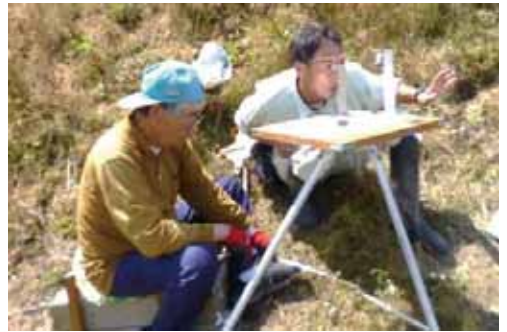
田んぼアートをきっかけに広がる、人と人とのつながり。まちおこしへの強い想い。そして活動が住む人の誇りと自信を細いでいた。



蚕桑駅前夢プロジェクトメンバー

木村 義弘さん (代表)
今野 正明さん
金田 洋一さん

① 測量



はじめに、展望台からきれいに見える比率を考え、測量。平板測量器は手作りだ。

③ 完成



平成 24 年作品

だんだんと色付き、7月中旬から見頃を迎える。展望台からは田んぼを一望できる。

② 田植え



プロジェクトのメンバーと地域のみなさんで田植え。児童や隣の地区も協力。

④ 稲刈り



ではえぬきをコンバインで刈ったあと、色の違う稲を手作業で刈取り。来年のための種籾とする。

<問い合わせ先>

白鷹町観光協会
TEL 0238-86-0086
FAX 0238-86-0087

蚕桑駅前夢プロジェクト (代表)
TEL 0238-85-4997

<蚕桑の田んぼアート場所>

〒992-0773
山形県西置賜郡白鷹町大字高玉 5061

Pick Up !

田んぼアート紹介 米沢市の田んぼアート

白鷹町と同じ、置賜地方で行われている米沢市三沢地区の田んぼアート。令和元年度は「米沢のいいところいっぱい！」がテーマとなり、米沢の名産品で「米」と「沢」の文字を描いた。

〒992-0076 山形県米沢市小野川町 2643 (展望台)

※見頃 毎年7月中旬～8月中旬

